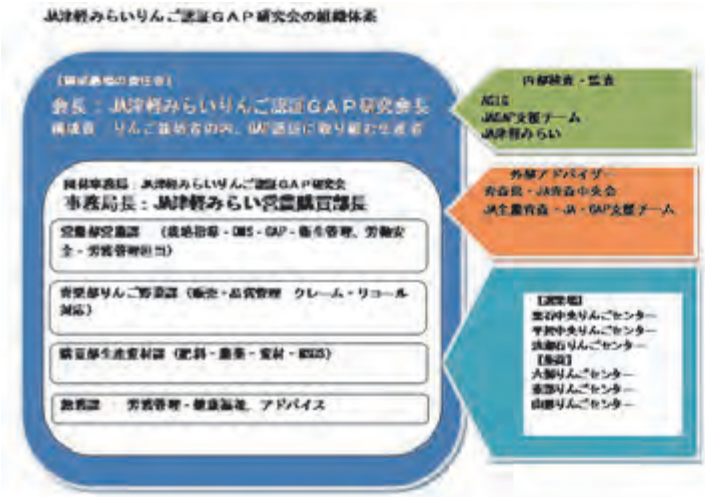
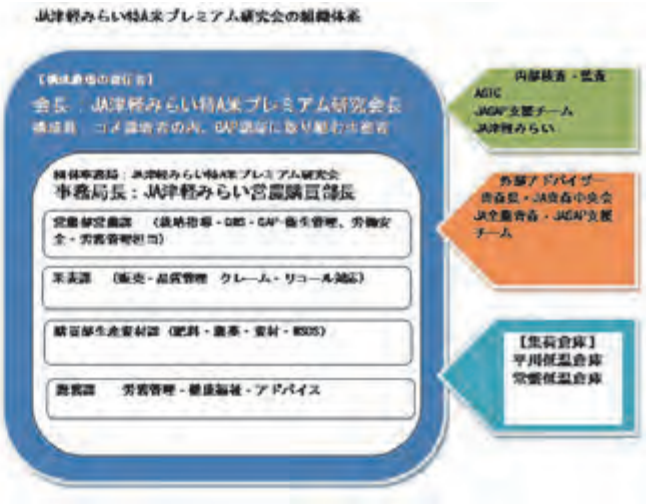
6　青森県

1　果樹、稲作同時ＧＬＯＢＡＬＧ．Ａ．Ｐ．認証取得

2　実証地区の概要

対象作物	米、りんご、桃	認証取得者数	継続
取得した GAP の種類	GLOBALG. A. P.		15 名 （うち新規 3 名）





3　ＧＡＰ認証取得に向けた産地の方針

水稲に関しては、生産調整が平成 29 年から廃止され、国内需要が減少している現状を踏まえ、より「安全・安心の農産物」の供給が求められため青森県のブランド米「青天の霹靂」ブランド強化を目的に青森県認証特別農産物と併せて取得、りんごに関しては、平成 30 年に発効されたＴＰＰ11 により巨大な自由貿易圏が誕生し国内消費の競争力が激化する中、政府の農林水産物・食品輸出拡大が掲げられたことにより、りんご輸出のブランド化を目的に取得しております。桃に関しては、今後の輸出を見据えた取得としています。

４　取組の過程

(1) ＧＡＰ団体認証に取り組むきっかけ及び組織の経緯

平成 29 年に「青天の霹靂」のブランド化を推進するにあたり、津軽みらい農協特Ａ米研究会で東京オリンピック・パラリンピックを目標に会員 3 名で取り組むこととなった。また、平成 30 年には、りんごの輸出において輸出国内の産地競争が厳しい環境にあったため輸出での差別化を図る必要があった。

これを踏まえて、平成 31 年 2 月に米・りんごで GLOBALG.A.P.認証取得となった。

(2) 日頃から感じていた産地におけるリスクの内容

食品衛生に関しては、製品に接触時に関して食品衛生を意識して生産している生産者が少なかった。労働安全については、毎年農作業事故が近隣でも見られたが、どのように対策や指導を行っていけばよいかわからず、リスクと感じていた。

(3) 産地リスクに対応した具体的な取組事項（評価指標と管理点）

①食品安全

米の土壌の安全性の確保に向けて土壌診断を実施した。調査の結果から今後の対策を考えるための要因の把握と指導体制を構築した。

また、土壌分析結果と収穫された米の分析により安心・安全な農産物の生産が可能となった。

②労働安全

りんごの防除作業事故が近年発生していたため、りんご防除作業事故ゼロに向けて取り組んだ。危険個所の調査・把握により、圃場ごとのリスク対策を整理し事故発生防止に向けた安全対策の確認ができた。農作業安全研修会の実施や注意喚起のための立て札設置により、意識向上が図られた。

また、防災無線や農事情報で常に農作業事故に注意するよう呼びかけを行った。

5　団体としてＧＡＰに取り組んで良かったこと

団体で取得して、農協指導員がＧＡＰに対しての理解力が向上したことにより、生産者に対しての指導強化がなされた。また生産組織としてのマネジメントが行われたことにより食品安全・農作業安全の意識向上が図られた。

また、販売するにあたり大手スーパーや百貨店との取引が増加した。

6　次年度に取り組む課題

指導員不足の解消は認証者を増やすために必須である。

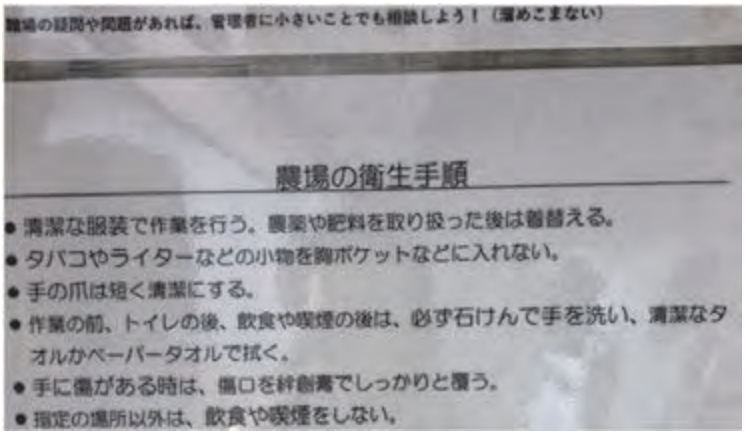
生産者の記録（肥料農薬散布記録、メンテナンス記録、清掃記録、校正記録）が審査の是正対象となっていることから、フォローアップ研修により改善を図る必要がある。

認証コストが高額なため、今後の運営方針を検討する必要がある。

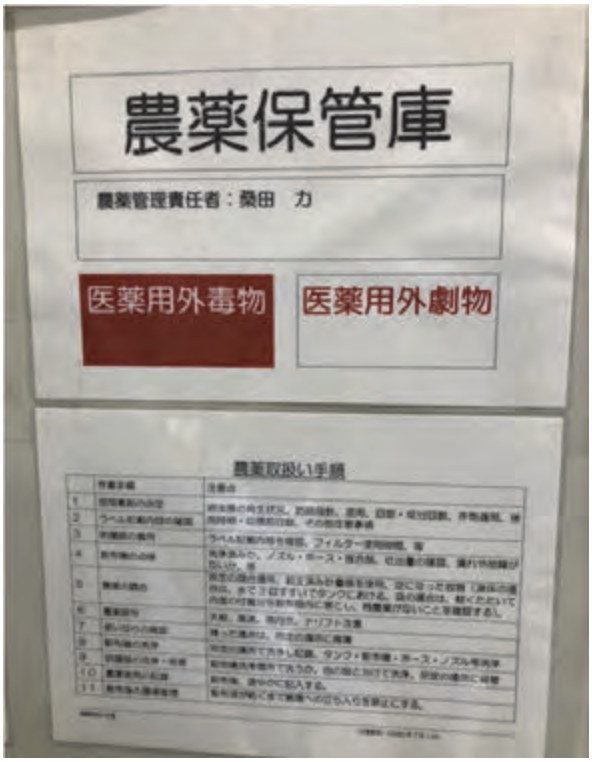
7　目で見てわかる改善変化

(1) 農場内に掲示した標識

作業員への衛生手順標識



農薬取扱い標識



(2) 取組(前)後の農場の状況がわかる写真

改善前

収穫用コンテナが農薬・燃料と混在していた

改善後

衛生的視点から収穫用コンテナの周辺を整理した。フォークリフトや運搬車がすぐ動かせるよう整理整頓した。

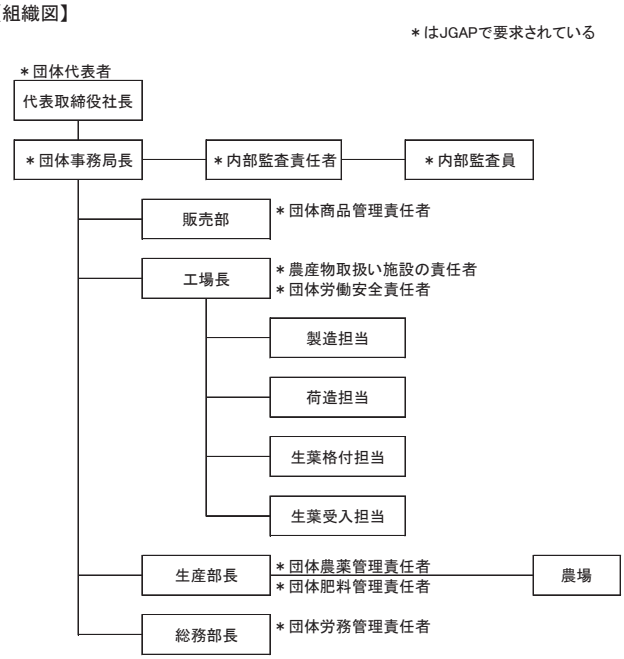
7　静岡県

1　安心安全な茶の生産・製造により継続的な農業を目指す

2　実証地区の概要

対象作物	茶	認証取得者数	新規
取得したGAPの種類	JGAP		31名 （うち新規31名）

【組織図】



3　ＧＡＰ認証取得に向けた産地の方針

当産地は、日々良質な茶の製造販売に取り組んでいる。

農産物が世界基準で求められる中、JGAP認証取得により、安心・安全な茶の生産、製造を行い、取引先をはじめ従業員・地域から信頼される団体・農場を目指す。

また年間を通してより安定的な販売を目指したい。

４　取組の過程

(1) ＧＡＰ団体認証に取り組むきっかけ及び組織の経緯

新たな市場開拓と販売先からの今まで以上の信頼を得るため、①ルールの統一やリスク管理を徹底　②生葉出荷者・従業員の意識向上　③生産・製造の工程のレベルアップ等を図り、安心・安全なお茶づくりを目指し、JGAP 認証取得に取り組みました。

2020 年 2 月にコンサルタントと契約し、荒茶工場が二番茶より運用を開始し、9 月に農場との契約、11 月に農場の内部監査、12 月に事務局・茶工場の内部監査、1 月に外部審査を受けました。

(2) 日頃から感じていた産地におけるリスクの内容

食品安全については、農薬の安全使用のため使用農薬を統一しているが、周辺茶園には他工場の生産者の茶園や生産者がわからない茶園もあり、ドリフトの可能性が懸念されていた。

労働安全については、茶工場内でのルールが曖昧だったので、事故・ケガ等の心配があり、リスクとして感じていた。

(3) 産地リスクに対応した具体的な取組事項（評価指標と管理点）

①食品安全

当団体では、「農薬使用事故発生及び異物混入事故をゼロにする」を目標に取り組みました。誤使用（倍率、使用前日数など）を防ぐため使用農薬の統一化を図りました。茶農薬一覧表を全体説明会開催時に配布し、最新情報を共有しました。生葉出荷者が農薬に対する知識・意識を高めることができました。

農薬の保管についても、保管庫の整備・整理整頓をはかり、在庫管理を確実に行いました。

②労働安全

「労働災害発生をゼロにする」を目標に取り組み、生産～製造でのリスク検討及び手順化、危険箇所へ注意喚起シールなどを貼り付けました。内部監査時にマニュアル・手順書・リスク検討表により検証及び危険箇所の注意喚起がされているか、の確認を実施しました。

5　団体としてＧＡＰに取り組んで良かったこと

ＧＡＰ認証に生葉提供者及び従業員全員で取り組んだことにより、記録・整理整頓・危険箇所対策等の意識が強くなりました。

また、食の安全に対する意識がより一層深まりました。

6　次年度に取り組む課題

次年度に向けて、作業日誌、肥料・農薬在庫台帳等の記入について、誤記入の防止や、記入方法の統一化に向けて勉強会を開催する。

更なる食品安全・労働安全の向上に向けて、研修会を開催する。

7　目で見てわかる改善変化

(1) 農場内に掲示した標識

工場内のルール手順の表示

手洗い手順の表示

工場内入出時の注意喚起

製茶機械危険箇所の注意喚起

安全な作業の注意喚起

(2) 取組(前)後の農場の状況がわかる写真

農薬陳列棚

陳列棚の配置を明確にしたことにより、何処に何があるかわかりやすくなった。
また、区分も明確になった。

燃料保管庫

消防署の指示により、燃料保管庫の設置。

掃除道具

掃除道具置場を明確にし、紛失がなくなった。

はさみ等保管場所

はさみ等の保管場所を明確にし、
数量の把握ができるようになった。

不用品置場

不用品置場を設置した。

8　静岡県

1　ＧＡＰ取得は食の安全と農業の継続性を確保するための第１歩

2　実証地区の概要

対象作物	茶	認証取得者数	新規
取得した GAP の種類	JGAP		32 名 （うち新規 32 名）

3　ＧＡＰ認証取得に向けた産地の方針

中山間地の寒暖差のある地域で良質な荒茶を生産している。現在の社会では、食品の安全や労働安全リスクの低減を図る必要を求められている。そこでＧＡＰの団体マネジメント機能を活用し、食品の安全性の確保及び部会員の健康面の安全や労務面の安全の確保を図り、持続可能な経営体を構築する。また、ＧＡＰを取得後は、ＧＡＰを生かした有利販売に繋げていく。

4　取組の過程

(1) ＧＡＰ団体認証に取り組むきっかけ及び取組の経緯

安定して荒茶販売を継続するためには、安心・安全な製品は必然であり、次に高いレベルでの平均化が必要と考える。ＧＡＰ取得をきっかけに、生葉生産組織の内部的なつながりをより強固なものとしたいと考えた。作業を文書化できない等、取組についていけない農場もあると考えられた。そこで、組織としてサポートできる体制を整えるため、団体認証が必要と考え、令和元年開催の通常総会において取組を進めるこ

とを承認いただいた。

また、当グループは、組合員ではない生葉提供者もいることから、それらの農場にかかる費用の分担が可能な農場に限定させていただいた。コンサルタントと契約し、指導を受けながら、計7回の研修会を開催し、令和2年11月に内部監査を行い、令和3年1月に初回審査を受けたところである。

(2) 日頃から感じていた産地におけるリスクの内容

・食品安全については、30年以上前から、農薬のトレーサビリティに取り組んできたが、一部の農場では形骸化し、データそのものに信用がないことや、農薬の使用時期や回数が慣例により必要以上になっている可能性があった。また、農薬や異物の交差汚染に対しての認識がないことも気がかりであった。

・労働安全については、死亡事故等の重大事故は起きていないが、小さな事故やヒヤリハットは頻繁に起きている。その危険性が、その時、その当事者だけで完結されてしまっている。また、茶工場内でも大きな事故は起きていないが、すべての作業員にその危険性を認識させるには至っていなかった。

・当地は少子高齢化が進む過疎地であることから、当グループの構成員は日ごろから地域の環境保全に取り組む役を担ってきた。しかし、各自の農場や倉庫等、日頃の農作業などが、環境に及ぼすリスクに対しての認識は低かった。

(3) 産地リスクに対応した具体的な取り組み事例(評価指標と管理点)

①食品安全について

当グループは海外へ輸出する荒茶もあるので、団体の農薬使用計画を作成し、全構成員に計画範囲内での使用をお願いした。在庫等の調整や、新規の農薬もあることから、計画以外の農薬、除草剤の使用は許可制とした。また、組合員以外は、農薬散布日の報告書の書式がばらばらであったことから、団体の報告書に統一した。

研修会のたびに、農薬の成分が同じものであることの注意喚起や、使用回数を1回以内にすること、最適な防除時期を意見交換した。また、雨の多いシーズンの番刈の方法等、物理的な防除を水平展開した。

農薬保管庫の整理整頓をお願いし、在庫管理を付けることで、期限切れ農薬を見つけ出した。ある程度量が集まったため、令和3年1月19日に廃棄業者に収集してもらった。

②労働安全について

研修会や内部監査で各農場の事故等を聞き出す中で、①耕運機を落下させてしまう、②機械のマフラーや油圧ホースに触ってやけどをした、③ハチやマダニにかまれた等の事故が起こっていることが分かった。それらを取り入れた倉庫・圃場リスク評価表、

栽培・摘採工程リスク評価表を作成し、今度の全体研修会にて配布、評価する。

茶工場においては、茶工場内の危険箇所を拾い出し、カバーを付ける等の改善を行った。また、清掃時の手順や電源を再入力する際の手順書を各機械に表示した。高所で作業する際のヘルメット着用を義務付けた。茶工場入場ルールを徹底するためにチェックシートを作成し、全作業員に記帳・異常時の報告を義務付けた。

5　団体としてＧＡＰに取り組んで良かったこと

約１年間、組合員と生葉提供者の全構成員は、真摯に取組に参加していただいた。慣れない文書の作成や、農作業を記録すること、倉庫内の整理・整頓、マニュアルの説明会や、研修等、多くの時間を割いてもらった。そうした中で、団体内でのつながりが強くなり、お互いの情報を出し合うことで、農作業や茶園の質改善にも貢献できた。また、今まで知らなかった、例えばガソリンは静電気を蓄積することなどの知識をコンサルタントや、ＧＡＰ協会の情報から入手し実践できたことは、農家としてのレベル向上につながったと思う。

6　次年度に取り組む課題

次年度は、まだまだ取組が遅れている生産者を中心に、レベルの底上げを行いたい。年度の中で、農薬や肥料に関しては、農作業と作業日誌、在庫記録、実施日報告書の整合が各自でできるよう勉強会を行いたい。

7　目で見てわかる改善変化

(1) 農場内に掲示した標識

①農薬の取扱注意喚起

農場保管庫の整理整頓、火気厳禁、用具・服装が適正か等、安全な農薬使用の注意喚起

②従業員への注意喚起

農場内に立ち入る条件を満たしているかの注意喚起（入場ルール）

(2) 取組(前)後の状況が分かる写真

①茶工場の屋根の補修

・工事前

・工事後

大雨が降ると、雨漏りをするため、異物混入のリスクが高く、操業を一時停止することもあったが、補修をし、雨漏りのリスクはなくなり、連続した操業が可能となった。

②茶工場内での頭部に触れる可能性の場所の改善

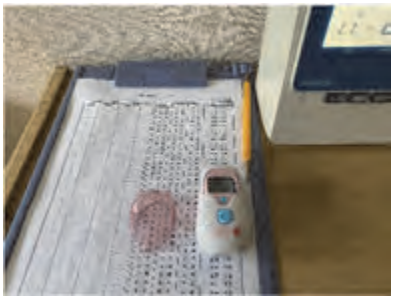
・改善前

・改善後

茶工場内の危険な箇所の洗い出しの中で、多くの指摘を受けた部分には、応急的に紙製のカバーを付けたが、まだ異物混入の可能性があったため、メーカーに相談・依頼し安全に配慮した堅牢なカバーを取り付けた。

③工夫・改善した事例あれこれ
茶工場における改善

むき出しになっている駆動部分が多いため、メーカーに相談・依頼し、危険がありそうな箇所すべてにカバーを作成し取り付けた。



工場入場ルールに、体温測定と服装チェックを義務付けた。

④農場における改善

倉庫内の整理整頓

機械・燃料・肥料・農薬を区分して保管することにより交差汚染のリスクが低減できた。